慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近衛家凞及び近衛家久など近衛家歴代当主を中心とする、近世期堂上歌壇史の研究
Sub Title	Study of the history of the wakas [31-syllable Japanese poems] written by Iehiro and Iehisa Konoe.
Author	緑川, 明憲(Midorikawa, Akinori)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2020
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2019.)
JaLC DOI	
Abstract	本年度もほぼ毎月1回、京都市右京区にある公益財団法人陽明文庫へ通い、同文庫が所蔵する『家久公御詠草』（近衛家第22代当主近衛家久の自筆和歌詠草類）の調査及び写真撮影を行った。事業計画に則り、平成31年4月から令和2年2月10日現在までの間に詠草類40の資料（202点）、約660首程の和歌を翻刻することができた。定数歌の資料は少なくなったものの、依然1点の資料に記される歌数は多かった。また、本年度調査した詠草類は特に書風の変遷が激しく、年代を特定するのがやや難しいものが多かったのが特徴である。また、これらの詠草類には家久以外の公卿たちの筆蹟も少なからず含まれているため、筆者の断定に慎重さが求められた一方で、家久が主宰していた近衛家歌壇の構成員の一端を明らかにすることが出来たため、非常に有意義な調査が行えたと自負している。昨年度分（4月から翌3月までの間。44の資料〈76点〉）と本年度を合わせた調査数は総詠草数の約2割であるが、近衛家久の家集の出版を念頭にして、今後も調査を継続していきたいと考えている。 一方で、陽明文庫での『家久公御詠草』の調査とは別に、家久の父家凞の書活動について、令和2年2月1日に『日本の書道の歴史に異彩を放つ近衛家凞』と題した講演を行った（杉並郷土史会主催。於杉並区立阿佐谷地域区民センター。当日の参加者はおよそ50名）。与えられた2時間の間に、飛鳥時代から江戸時代までのわが国の書風の変遷について時代毎の政治史や文化史に関連させて述べ、その上で、江戸時代中期に活躍した家凞の書風の特殊性、つまり公用書体として全国的に「御家流」が用いられる社会にあって、平安時代の貴族たちが用いた書風（いわゆる「上代様」）を得意としたことと、そのような書風になった必然性について指摘した。この講演の中で、本年度受けた補助金を以て購入した家凞自筆の書状を参加者の閲覧に供し、理解を深めてもらった。 This research into the Waka[31-syllable Japanese poems] of Iehisa KONOE, who was one of the nobles of the Edo era, held monthly at the YOMEI Library in Kyoto, which is known as KONOE family's library and has preserved about 1083 original documents written by Iehisa. This included taking their photographs and reprinting them.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2019000007-20190274

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2019年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2020年3月16日

研究代表者	所属	横浜初等部	職名	教諭	補助額	500 （特B）千円
	氏名	緑川 明憲	氏名（英語）	MIDORIKAWA Akinori		

研究課題（日本語）

近衛家凞及び近衛家久など近衛家歴代当主を中心とする、近世期堂上歌壇史の研究

研究課題（英訳）

Study of the history of the Wakas[31-syllable Japanese poems] written by Iehiro and Iehisa KONOE.

１．研究成果実績の概要

本年度もほぼ毎月1回、京都市右京区にある公益財団法人陽明文庫へ通い、同文庫が所蔵する『家久公御詠草』（近衛家第22代当主近衛家久の自筆和歌詠草類）の調査及び写真撮影を行った。事業計画に則り、平成31年4月から令和2年2月10日現在までの間に詠草類40の資料（202点）、約660首程の和歌を翻刻することができた。定数歌の資料は少なくなったものの、依然1点の資料に記される歌数は多かった。また、本年度調査した詠草類は特に書風の変遷が激しく、年代を特定するのがやや難しいものが多かったのが特徴である。また、これらの詠草類には家久以外の公卿たちの筆蹟も少なからず含まれているため、筆者の断定に慎重さが求められた一方で、家久が主宰していた近衛家歌壇の構成員の一端を明らかにすることが出来たため、非常に有意義な調査が行えたと自負している。昨年度分（4月から翌3月までの間。44の資料〈76点〉）と本年度を合わせた調査数は総詠草数の約2割であるが、近衛家久の家集の出版を念頭にして、今後も調査を継続していきたいと考えている。

一方で、陽明文庫での『家久公御詠草』の調査とは別に、家久の父家凞の書活動について、令和2年2月1日に『日本の書道の歴史に異彩を放つ近衛家凞』と題した講演を行った（杉並郷土史会主催。於杉並区立阿佐谷地域区民センター。当日の参加者はおよそ50名）。与えられた2時間の間に、飛鳥時代から江戸時代までのわが国の書風の変遷について時代毎の政治史や文化史に関連させて述べ、その上で、江戸時代中期に活躍した家凞の書風の特殊性、つまり公用書体として全国的に「御家流」が用いられる社会にあって、平安時代の貴族たちが用いた書風（いわゆる「上代様」）を得意としたことと、そのような書風になった必然性について指摘した。この講演の中で、本年度受けた補助金を以て購入した家凞自筆の書状を参加者の閲覧に供し、理解を深めてもらった。

２．研究成果実績の概要（英訳）

This research into the Waka[31-syllable Japanese poems] of Iehisa KONOE, who was one of the nobles of the Edo era, held monthly at the YOMEI Library in Kyoto, which is known as KONOE family's library and has preserved about 1083 original documents written by Iehisa. This included taking their photographs and reprinting them.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名（著者・講演者）	発表課題名（著書名・演題）	発表学術誌名（著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月（著書発行年月・講演年月）
緑川明憲	日本の書道の歴史に異彩を放つ近衛家凞	杉並郷土史会	令和2年2月1日